

厄年を乗り切ろう！

厄年を前向きに過ごす秘訣

みなさんは、「厄年」を気にしますか？とかく敬遠されがちな厄年ですが、その本質を理解すれば、いろんな側面が見えてくるから不思議です。今回は、あかね先生の厄年講義です。これを読んで、厄年を有意義に乗り切りましょう！

あかね☆開運塾

年齢による厄年

サルサ読者の皆さま、こんにちは。占い師あかねです。日頃の鑑定の中で厄年に関する不安や、厄年をどう過ごせばいいのか…、という質問が多いので、今回は厄年に関する文献からの引用も交えて、厄年について考えてみたいと思います。

年齢による厄年

厄年は生まれた年を1歳と数える「数え年」で考えます。

男性	25歳・42歳・61歳
女性	19歳・33歳・37歳・61歳

この年齢が「本厄」であり、前後の年は「前厄」「後厄」となります。

では、厄年とはそもそも何なのか？

「厄年」は、平安時代には既に存在していた概念であり、「役年」ともいいます。

厄年が、人生の転機にあたる時期や役職を与えられる時期であるため、災厄・災難もふりかかりやすく、気を付けなければならぬ年齢、すなわち、「忌み慎む年齢」という意味です。

それまでは、地域によって、何歳が厄年にあたるか…という決まりがなかったようですが、陰陽道によって方位・日時の吉凶が定められ、災いを招きやすい年齢として、「厄年」が定められたそうです。

また、33歳を散々（さんざん）、42歳を死人（しにん）と読む語呂合わせからも、忌み嫌われるようになりました。そこで、厄年になったら厄除けの祈願をするようになり、厄年の災厄を避けるための風習が出来上がり、今日に至ったようです。

みなさんも、一般的な厄除け祈願をご存知かと思いますが、この厄祓いは、大きく分けて次の3種類の方法があるようです。

- 1 厄を流す・落とす
- 2 厄を分かち合う
- 3 厄から身を守る

さて、この祓いの風習は地域によって違います。今回は、その中でも興味深いものをいくつかご紹介しましょう。

1 厄を流す、落とす

「三重県」「福島県」
厄を洗い流すという意味で、厄年の人は親しい人に内祝いとして洗剤を送ります。



「浜松の遠州地方」
厄年の年の2月3日の夜にナ夕餅という餅で体を擦り、餅に厄を移して、お金やお菓子と一緒に餅を半紙に包み、自宅近くの十字路に置くそうです。

その際には、玄関を出たら誰にも会わず、声を出さず、振り返らず、行きとは違う道で走って帰るそうです。これを守らないと厄が背中についてくるといわれます。

「徳島県」

女厄坂という名称の33段の階段、男厄坂という名称の42段の階段、男女選曆厄坂という名称の61段の階段にご真言を唱えながら1円玉を一枚ずつ置き、厄を落とします。

「島根県」

歳得神と書かれた幟（のぼり）を、吉兆という役割の人が持ち町内を歩き、厄年の男が務める番内という役割の人が鬼のお面をつけて、家の門先を青竹で叩いてまわり厄を落とします。



2 厄を分かち合う

「秋田県」
中学校の同級性と一緒に神社で厄祓いをして、その後は同窓会をし、皆で一丸となって厄を祓う。



「長崎県」

6月1日に長崎の祭り「長崎くんち」の小屋入りがはじまると、厄祓いのお祓いをします。前厄の男性が食事や酒を振る舞い、厄を皆で分かち合います。その宴の日は何かあってもいいけないという意味で、12時まで厄年の本人を家に帰してはいけません。

3 厄から身を守る

厄年を迎える家族や友人が「厄年を無事に過ごして下さい」という願いを込めて贈り物をする。

その際には長寿を表す「長いもの」、七福神を表す「七色のもの」、魔除けの霊力をもつ蛇を表す「うろこ模様のも」が良くとされています。



厄年は、環境の変化や体の変化を迎える年齢になりますので、健康に留意して身を慎み、災難に合わないよう気を配ると良いでしょう。

厄は、「厄」「役がつく」という良い意味ももっていますが、災厄の方が先走ってしまい、恐れられているようです。

したがって、本来の「役」を果たすことによつて、厄年は怖いものではなくなるのではないのでしょうか。

役を果たすとは、例えば、PTAの役員、町内会長・部長・役員という役職を果たすこと。また、ボランティア・町内清掃などで陰徳を積み、人の役に立つことです。

ちょっと面倒臭いこと、労力があることかもしれないですが、そのようなことが出来る年齢になったということで、逃げずに向き合うことが厄を乗り越えることになりま

方位除け・八方塞がりの厄年

星回り・九星に基づいて決まる厄年です。九星とは、中央・東西南北・北東・北西・南東・南西の方角を巡り、9年に1度、中央に収まります。

自分の生まれた星が中央に収まった時は、他の8つの星に周囲を囲まれているので「八方塞がり」といいます。

数え年で、自分の年齢の十の位と一の位を足して十になる年が八方塞がりの年です。

八方塞がりの年は、中央に収まっていることから、外向きのエネルギーよりも、自分の心と向き合う内向きのエネルギーが働く年になります。

したがって、勉強をして自分の能力向上に努める・修行をする・本当にやりたいことは何か考えるなど、心と体の充実の時期となります。

年齢による厄年も星回りの厄年も、生きていけば誰もが順番に通る道です。

例えば、厄年に病気になるたら、健康にもっと気をつけましょうということですね。

仕事や学業・人間関係で失敗したら、あなたのやり方は間違っていないか？という問いかけです。事故を起こしたら日頃の運転を注意しましょうという啓示です。

厄年は必ず明けます。厄年を上手く過ごすことによつて、「翌年は新しい自分になる」と考えてみてはいかがでしょう。

指導・監修／占い師 あかね先生 愛知県在住

◇四柱推命 ◇風水師 ◇一般健康管理指導員 ◇『茜堂』主宰

四柱推命・タロット・風水等を学び、独立する。お客様の知りたいことに対して占術を使い分けて、わかりやすくアドバイスしている。相手の気持ちや悩み、心や性格の深層部分までリーディングする鑑定や、仕事・転職のタイミング・旅行の方角から時期まで、運氣上昇についての占いが好評を得ている。一般健康管理指導員の資格取得、先天的に注意する健康や、後天的な健康に対するアドバイスは的確。四柱推命・風水教室も開催している。

■公式ホームページ

<http://akanedou.chu.jp> 「愛知県 あかね占い師」で検索

